

平成 23 年 3 月 18 日

3 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、スギの柱材、中目材ともに順調な荷動きが続くものの、一時の引合いの強さは感じられない。ヒノキは、良質材の引合いは好調だが、並材は減速感が広がっている。丸太の生産は、間伐主体で順調な生産が続く。入・集荷は平年を上回る状況。スギの価格動向は、柱材が在庫一巡から弱含みに転じており、中目材も間伐材主体で並材多く弱保合。ヒノキは、柱材・中目材ともに弱保合で推移。群馬は、カラマツ原木価格が上昇中で、在庫はやや少ない。製材工場は 2 月後半よりやや受注減ながらほぼ順調に操業。製品価格は原木高に応じた値上げは出来ていないが、原木の軟化で値上げも足踏み状況。スギ原木は高値高原状態が続いたが、3 月に入り一服感が出てきて軟化傾向。

2. 米材

1 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 14.6%増の年率 59.6 万戸となった。米国丸太は引き続き中国の買いが旺盛で価格は上昇。また、カナダ丸太も同様で、中国プラス日本の合板メーカーの買いが強く、価格は強含みの展開。2 月の産地港頭在庫は約 5,300 万スクリブナー(約 25 万 m³)。また、ウェアハウザー社の 3 月積み米マツ IS ソートは引続き上昇中。米材丸太の入・出荷・在庫ともに横這いで推移。大型港湾製材工場の 2 月の荷動きは、プレカットが好調だったことから堅調に推移。内陸部製材工場の荷動きは低調。一方、製材品は入荷が減少し、出荷が増加したため、在庫は減少した。米国の住宅着工は、前月比微増ながら、自動車等が回復に向かう米国経済の中で依然として低水準。産地価格はそこそこの水準で、据え置きが続く。先行きは米マツ製品を中心に、入荷は回復の見通し。国産材の品薄、価格上昇で米ツガ製品の引合いが増えたが、入荷が少なく、商機を逸している状況。

3. 南洋材

サバの天候は大分回復し、旧正月明けとともに伐採が始まったが、本格作業とはなっていない。丸太相場は、伐採規制の強化等により一段と上昇。製材品もその影響を受け、相場は強気一辺倒の状態。サラワクは相変わらず天候不順

が続く。丸太相場は、インド、中国からの旺盛な引合い、今年からロイヤルティが30%アップしたことによる急激な原木高の進行等により、製材工場は良材の手当が出来ず、注文不可の状況。PNG・ソロモン材は、中国、インドの買いにより、相場は一段と強含み。丸太の入荷はやや減少、出荷は横這いで在庫はやや減少。製材品はやや減少。丸太の販売は、合板用・製材用とも前月並。製材品は、相変わらず入荷が悪く、欠品も散見されるが、全体の荷動きは良い。

4. 北洋材

ロシア極東の出材は順調だが、依然として日本向けの意欲は低く、エゾマツ、カラマツ丸太ともにオファー玉は極めて少なく、また、価格面でも輸出関税問題で高騰した最高値を更新中。中国沿岸部の買いも引き続き旺盛で、アムールの出材する6月までは大きく値が下がる可能性少ないとの見方大。シベリア地方の出材も順調。アカマツ丸太はここ数年200\$/m³前後で比較的落ち着いているが、国内製材メーカーからの冬切り材の買いが順調なことから今後強含みが予想される。富山港・富山新港の2月丸太入荷は、18,800 m³(アカマツ5,125 m³、エゾマツ10,817 m³、カラマツ2,858 m³)と先月比40%増。一方、製品は14,592 m³で先月比102%増。荷動きは、丸太・製材品(輸入製品、国内挽き)ともに引続き好調。在庫は1.5ヶ月。価格は丸太、製材品とも強含み。国内製材工場は、採算が取れず引き続き厳しい状況。

5. 合板

合板用丸太価格は、国産材・外材ともに引続き強基調で、各メーカーは集材に苦勞している。特に、国産材丸太は一時の逼迫した状況からは抜け出した様子で出材量の回復に期待感が出ている。1月の国内の合板生産量は約21.6万m³で、うち針葉樹合板は18.8万m³(対前年同月比95%)で前月に比べ減少したが、出荷量は21.5万m³(同102%)と好調な状態を維持。このため、在庫は14万m³まで減少し、納期遅延が顕著な状況。販売価格は、針葉樹合板、国産南洋材合板ともに、メーカー側は価格転嫁へ強硬な姿勢で臨む方針。市場では先高感から引合いは多く、仮需が生じており荷動きは好調。国産合板は諸資材高騰を理由にメーカー主導による強含み展開が継続。特に、南洋材合板メーカーは原木問題が深刻で、製品への価格転嫁を急速に進めている。輸入合板の品薄品目が増えていることもあり引合いは好調。一方、輸入合板は、先高感がさらに強まり、川上を筆頭に過熱気味の相場展開。また、産地での船積み遅れの影響により、タイトな品目が増えている。先行きは引続き国産、輸入合板ともに川上の在庫が低水準な中、価格上昇がいつまで続くかは不透明。川上での現物玉確保はさらに激化することが予想され、不足品目を筆頭に価格はさらに上昇する見通し。

6. 構造用集成材

欧州ラミナの日本向けは順調に入荷。中東の混乱でエジプト向け出荷は減少。現地価格は、1月契約分は若干下げ。今後は減産を踏まえ生産調整の方向で変わらず。中国からのB材引き合いは依然旺盛。国産集成材の状況は、スギEWが落ち着き、WW柱は輸入材の入港遅れとスギからの転換で荷動きは好調だが、原料は依然高値安定。国産集成材の販売先行きは、3月には入り落ち着き感あり。在庫は若干増。輸入集成材は3月入港遅れの影響でWW柱が不安定。スギ無垢柱の品薄感が落ち着きつつある中で、WW集成材はスギ材高騰の影響を受け、値戻しを唱えるメーカーもでてきているが、その後は横這い。

7. 市売問屋

国産構造材は、依然としてスギ、ヒノキとも入荷は少ないが、これによる逼迫間はさほど感じられない。外材は現地挽き製品については入荷順調。スプルース、ヒバ等建具用良材は引合い多いが少ない。造作材は、建築用の動き悪いが、スギ建具用は堅調維持。外材では、米ヒバ、スプルースは引続き動きよいが、良材少なく苦慮。販売状況は、マンション、土木の工事が活発だが、仮設用バタ角等の入荷鈍く、対応に苦慮。入ればすぐ売れる状況。全般的に入荷薄で、一部では欠品、不足状態が続いている。これから春需要期を迎えるが、原木出材が懸念され先行きの見通しが見つからない。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、板割、ヒノキKD柱、土台とも変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角KD、欧州材間柱は、いずれも変化ないが、ロシアアカマツ垂木は原板が入らず先行き高い。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合で変わらず。合板は針葉樹合板が全般的に強含み。ラワン合板の輸入品は強含み。床板は変わらず。プレカット工場の動向は、見積、加工ともに順調に推移。工務店は、リフォーム中心の受注なので、羽柄材が主体で構造材は動かない。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)

事業名：林野庁補助事業「木材利用促進のための市場情報集積提供事業」

事業実施主体：特定非営利活動法人 活木活木（いきいき）森ネットワーク